

インバータ新生産システムが「2008年日経ものづくり大賞」を受賞

当社の「インバータ新生産システム」が、日本経済新聞社主催の「2008年日経ものづくり大賞」を受賞しました。

「日経ものづくり大賞」は、日本経済活性化の原動力となる「ものづくり」の最先端の動きを取り上げ、「ものづくり」に関わる国内外の優秀な工場や研究所、そこで採用するシステムや仕組みなどを表彰するものです。

今回受賞した「インバータ新生産システム」は、当社ロボット、FA機器、RFID技術*、電子手順書などを活用した新生産方式で、作業者の技能・習熟度に関係なく、品質が良いものを高い生産性で安定して作れるよう、機械・人・ITの融合により付加価値を最大限に高める生産方式です。

また、英国、中国、米国の各海外生産拠点においても同様のコンセプトで構成した生産システムを同時に立ち上げました。



「2008年日経ものづくり大賞」授賞式

インバータ新生産システム(福岡県 行橋市)

日本とそれらの各拠点でリアルタイムな生産情報の共有が行われており、グローバルネットワークを介した生産情報の「見える化」を実現しています。

* Radio frequency identificationの略、ID情報を埋め込んだタグから、電磁界や電波などを用いた近距離の無線通信によってヒトやモノを識別・管理する仕組み。

第10世代液晶ガラス基板搬送ロボット MOTOMAN-CDL3000Dが「『今年のロボット』大賞2008」の「日本機械工業連合会会長賞」を受賞

当社開発の第10世代液晶ガラス基板搬送ロボットMOTOMAN-CDL3000Dが、「『今年のロボット』大賞2008」の「日本機械工業連合会会長賞」を受賞しました。

「『今年のロボット』大賞」は、ロボットの研究開発及び技術の活用、市場創出を推進するため、経済産業省が共催機関と実施している表彰制度で、当社が受賞した「日本機械

工業連合会会長賞」は、ロボット産業の振興において特に優れたロボットに贈られる賞です。

MOTOMAN-CDL3000Dは、第10世代サイズと呼ばれる、3m角クラスの超大形液晶ガラス基板搬送をターゲットに、業界で初めて昇降軸にダブルリンク式支柱を採用し、基板の大形化による生産効率向上への対応、設備費用削減やライン立ち上げ費用・時間の低減を実現しました。

この度の受賞は、成長する液晶分野において、世界初の独自技術により高速・高精度・安定搬送のニーズに応えた点を評価いただきました。また、液晶以外にも太陽電池分野への展開も期待されるなど、ロボットの活用範囲を広げる工夫も評価され、受賞につながりました。



第10世代液晶ガラス基板搬送ロボット MOTOMAN-CDL3000D

偏平形中空アクチュエータが「2008年“超”モノづくり部品大賞 機械部品賞」を受賞

当社開発の「偏平形中空アクチュエータ」が、モノづくり推進会議/日刊工業新聞社協賛の「“超”モノづくり部品大賞」を受賞しました。

「“超”モノづくり部品大賞」は、日本のモノづくりの再興と、産業・社会の発展に貢献することを目的として、縁の下の力持ちである部品・部材にスポットを当て表彰する制度です。

今回当社が受賞した「偏平形中空アクチュエータ」は、2007年11月に発売した新世代ロボットMOTOMAN-SDA10、MOTOMAN-SIA20の関節部にも使用し、ロボットの更なるスリム化、高速化を実現しています。

本製品は、通常は組合せて使用するサーボモータ、位置検出器、ギヤ、ブレーキを一体化した製品です。従来品に比べ、容積は25%、全長は37%と小形化を実現し、ロボット関節部分の干渉を大幅に抑えた成果が高く評価され、受賞につながりました。



偏平形中空アクチュエータ

社会貢献の取り組み

For The Future

「北九州市ワーク・ライフ・バランス表彰 市長賞」を会社と個人で受賞

「北九州市ワーク・ライフ・バランス表彰」は、子育て支援や男女がともに働きやすい職場環境づくりに取り組む企業・団体等を北九州市が毎年表彰するもので、市内に本社を置く当社は今回会社として、また、当社社員杉井千春さんが個人として受賞しました。



表彰式

当社では平成17年に次世代育成支援対策推進法に基づき行動計画を策定し、会社と労働組合で「仕事と子育ての両立ができる環境の整備」に取り組んできました。今回の受賞は育児休業の一部有給化や勤務時間短縮などの措置の適用拡大などの活動を評価いただいたものです。

また、杉井さんは4児の母であり、子育てのために定時退社する上での積極的な業務改善と、仕事と家庭・育児を両立させながら自己研鑽をする姿が社内外の女性のロールモデルとなっていることを評価いただきました。



■お問合せ先：人事総務部

TEL 093-645-8810 FAX 093-631-8837

陸上部NEWS

詳細情報は <http://www.yaskawa.co.jp/activities/track-field/index.html> で公開しています。



今シーズンの駅伝で大きく成長した黒木選手

選手の声：.....

チームとしては課題が残るシーズンとなりました。これから更に力を付け、チームに貢献し、「安川電機が良い結果を出せるよう頑張っていきます。今後とも温かいご声援よろしくお願ひします。」

黒木 文太

秋から冬にかけては、当社陸上部が年間を通じて最も重要視している駅伝シーズンでもあります。この駅伝シーズンを通じての成績は、総評するともう一歩という結果に終わりました。

シーズンインとなる九州一周駅伝には福岡県代表24名中6名の代表選手を送り込み全員が区間賞を獲得する走りを披露。中でも岡田選手、立石選手は安定感を発揮し、2年目の北島、黒木選手も急成長を遂げ、福岡県の4連覇に大きく貢献しました。

勤労感謝の日恒例の九州実業団毎日駅伝では、1区、2区で先頭を迫る位置でタスキをつなぐという順調な滑り出しを見せ、3区で首位を奪取。4、5区で先頭をキープし、3年ぶりの優勝を期待させてくれました。しかし、最短距離の6区で3位と順位を落とし、ゴールでは首位に1分24秒差と、優勝をみすみす逃してしまう非常に悔しい思いをしました。

若手中心のメンバに、九州実業団毎日駅伝の出場を見送ったエース小畑選手を投入して臨んだ日田・中津駅伝においては、大会新記録で12連覇を達成し、チームに勢いがつくと思われました。

しかし、最も重要な大会と位置付けるニューイヤー駅伝では、1区の出遅れを2区、3区で取り戻すことができず、順位浮上のキッカケをつかめないまま18位に沈みました。3年連続入賞を目指していただけに、チームとしては非常に悔しい結果となりました。

成人の日恒例の朝日駅伝では1区から5区まで黒木、飛松、小畑、立石、岡田選手という走りの安定したメンバを投入し、激しい先頭争いを見せました。結果は3位でしたが、この5名はいつでも駅伝で「勝てる!」という安定性を見せてくれました。

今回の駅伝シーズンは、チームとしては満足できるものではなく、これを克服するためにも2月、3月のロードレース、クロスカンントリー、マラソンでは結果を出し、来年度につなげていきたいと日々努力して参ります。応援よろしくお願ひします。

◆2009年8月～2009年1月の主な戦績

日程	大会名	実績
10月 5日	10マイル福岡県選手権大会	立石選手3位。黒木選手8位、平野選手9位。
10月31日～11月 9日	九州一周駅伝	岡田、飛松、立石、黒木、北島、久保田の6名が福岡県代表となり、4連覇を達成。全員が区間賞を獲得。
11月23日	九州実業団毎日駅伝	3、4、5区で先頭を走るも2位。
12月14日	日田・中津駅伝	大会新記録で12年連続優勝を達成。5区間中4区間で区間賞を獲得。
1月 1日	ニューイヤー駅伝	1区でつまづき、盛り上げならず18位。
1月12日	朝日駅伝	5区まで先頭争いを展開し3位。飛松選手が区間新記録で区間2位。小畑、岡田選手が区間賞を獲得。